

宇治市五ヶ庄の黄檗宗大本山・萬福寺で毎週金土日曜に夜間特別拝観が行われ、光のアートで境内を彩る「漆黒に浮かび上がる―国宝を抱く」が催されている。「龍」をテーマに幻想的な光が照らされ、昨年に国宝に指定された本堂などの文化財が浮かび上がっている。

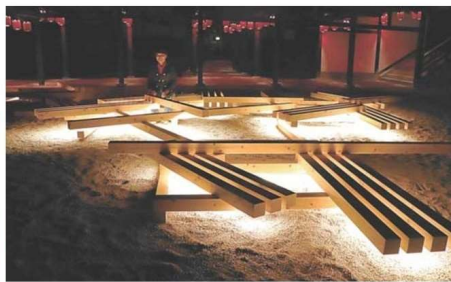
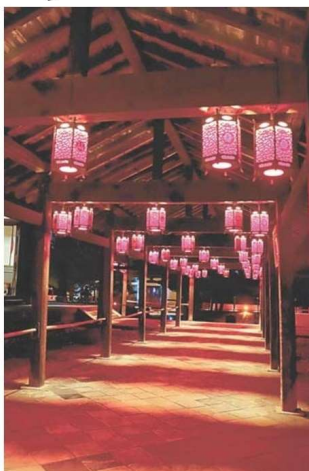
宇治・萬福寺で毎週末に特別拝観

光のアート 国宝彩る



穏やかな光で照らされた本堂「大雄宝殿」や参道(宇治市五ヶ庄・萬福寺)

①京都府内産のヒノキで作ったベンチ
②幻想的な雰囲気を出すため、赤い紙を張った回廊の灯ろう



「龍」テーマ
夜の煎茶会なども企画

昨年12月に本堂「大雄宝殿」と「法堂」「天王殿」の3棟が国宝に格上げされたことを記念して開催している。光のアートは、京都市左

ランク・ヴェッターさんが手がけた。国宝の建物3棟は空をイメージした青色、龍の背の鱗をモチーフにした参道の敷石は優しいオレンジ色で照らした。山中さんによると、「萬福寺本来の良さを伝えたい」と考え、できる限り穏やかな配色の照明を使ったという。

建物を結ぶ回廊にかかる灯ろうの内側に赤い紙を張り、幻想的な雰囲気を演出。京都府内産のヒノキを組んで作ったベンチを境内に6基配置し、拝観者がじっくりと眺められるようにした。

山中さんは「心を清らかにしてアートを味わってもらい、静かな夜を過ごしてほしい」と話す。夜の煎茶会や中国風の精進料理・普茶料理の弁当販売といった特別企画もある。いずれも要予約。

夜間特別拝観は来年2月8日までの毎週金土日曜の午後5時～午後9時。12月5～7日、1月2～4日は休館。料金は大人千円、中学生500円、小学生以下無料。問い合わせは同寺0774(32)3900。(本好治央)